

拝啓、宮澤賢治様

「思想家であり、実践家であり、夢想家である。

農業を信じ、愛し、農業に希望を託した人。野宿の人。

「誰にも理解出来ない言葉を使う人であり、子供のお絵かきのように詩を作る人。」

と、演出家・今野勉氏は著書の中であなたの印象を語り、「修羅を生きた詩人」として一冊の本を著わしています。他にも沢山の文学者があなたの評伝・評論を発表しています。

「宮澤賢治」に心惹かれ、でも難しい言葉や専門的な言葉には何をどう考えていいか判らなかつた私。あなたの『春と修羅』の「序」の中に書かれてあった

「わたくしといふ現象は 仮定された有機交流電燈のひとつの青い照明です・・・かげとひかりのひとくさりつつ そのとほりの心象スケッチです これらについて・・・それらも畢竟こゝろのひとつの風物です・・・（すべてがわたくしの中のみんなであるやうにみんなのおのおののなかのすべてですから）・・・」

の言葉に私の内の構えてかんでいたものがほどけたような気持ちがしました。理解しようとするのではなく感じようと思いました。自分に正直でありつづけたあなたと向き合って、歌をうたい、そしてあなたの物語を読んでみようと思います。

あなたへの尊敬と敬愛を込めて

敬具

大橋多美子



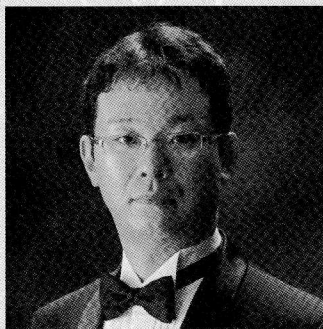
メゾソプラノ 大橋 多美子 Tamiko Ohashi

フェリス女学院音楽学部声楽科卒業。

平成2年度愛知県芸術文化選奨文化賞、平成22年度名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞。

1977年に活動を開始し、リサイタルを中心にオペラ、宗教曲、第九交響曲等のソリストとしても多数出演を重ねる。また古楽にも親しみ、ジャンルに囚われることなく演奏活動は多岐に渡る。2018年のリサイタルには朗読のステージをプログラムに組み、これを機に音楽演奏と物語のグループ「おんがたり」を結成し活動開始。そのほかアンサンブルや合唱の指導にも長年携わっている。CDフランス歌曲選「夢のあとで」R.シュトラウス歌曲集「朝に」日本の歌選「もうすぐ春・折節の歌」がリリースされており、2021年谷辺昌央氏とのCD「武満徹・細川俊夫/声とギターの世界」が発売。

三宅春恵、木下武久、飯田純子の各氏に師事。現在、愛知芸術文化協会、日本演奏連盟会員。東海パロックプロジェクト顧問、おんがたりメンバー。アーベント・ムジーク主宰。



ピアノ 石山 英明 Hideaki Ishiyama

オーケストラを彷彿とさせる繊細かつダイナミックな表現と、幅広いレパートリーを誇るピアニスト。国立ベルリン芸術大学ピアノ科に学び、在学中よりソロ・室内楽・オーケストラとの共演等の演奏活動を始める。

近年は東海地方を中心にオペラ・歌曲の伴奏者として数多くの内外の歌手と共演し、オペラ公演のコレパティトゥールとしても数々の公演を成功に招いている。後進の指導にも積極的である。

内藤忠勝、荒憲一、クラウス・ヘルヴィッヒの各氏に師事。現在、桜花学園大学保育学部教授。

ご来場のお客様へ新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をお願い致します。